

(様式6)

高橋 範行 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 The cytokine polymorphisms affecting Th1/Th2 increase the susceptibility to, and severity of, chronic ITP
(サイトカイン多型は Th1/Th2 の増加と ITP の感染性、重症度に影響する)
BMC Immunology 18: 26, 2017 (doi: 10.1186/s12865-017-0210-3)
Noriyuki Takahashi, Takayuki Saitoh, Nanami Gotoh, Yasuhiro Nitta, Lobna Alkebsi, Tetsuhiro Kasamatsu, Yusuke Minato, Akihiko Yokohama, Norifumi Tsukamoto, Hiroshi Handa, Hirokazu Murakami

論文の要旨及び判定理由

本研究論文は、Th1細胞が産生するサイトカインであるインターフェロン γ (IFN- γ)と、Th2細胞が産生するインターロイキン4 (IL-4)、さらにそれぞれの受容体 (IFN- γ R, IL-4R α) の遺伝子多型と、慢性特発性血小板減少性紫斑症 (chronic immune thrombocytopenia: cITP) の発症、臨床像、治療反応性との関連を検討したものである。cITP患者 (126名) と健常者 (202名) の血液から調製したDNAを用いて、上記の遺伝子多型の出現頻度を解析した結果、cITP患者は健常者に比べて、高活性型のIL-4R α 多型をホモで持つ被験者が有意に少ないことが分かった。また、cITP患者の臨床背景と遺伝子型を比較すると、高発現型のIFN- γ 遺伝子多型を持つ患者は血小板数最低値が有意に低く、また低産生型のIL-4遺伝子多型をホモで持つ患者は治療反応性が不良であった。フローサイトメトリーによる解析の結果、cITP患者は健常者に比べてTh1/Th2比が高く、また、この値がより高い患者の方が重症であった。

以上のように本研究は、サイトカインとその受容体の遺伝子多型が、ITPの臨床像や治療反応性に影響する可能性を示しており、ITPの病態の理解に寄与する成果であると認められ、博士 (保健学) の学位に値するものと判定した。

(平成29年6月22日)

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 生体情報検査科学講座	大西浩史	印
副査	群馬大学大学院教授 リハビリテーション学講座	土橋邦生	印
副査	群馬大学大学院教授 生体情報検査科学講座	齊尾征直	印

参考論文
なし